

少子化問題について

少子化をめぐる若者の意識

村井なおみ

(岡本裕介ゼミ)

日本では、いまや少子化は多くの人が心配する深刻な社会問題である。少子化が引き起こす急激な人口の変化は、日本社会に危機をもたらすと言われている。政府はなんとかして少子化を食い止めようと様々な対策を考えているようだが、なかなか本格的に実施されていない。ところで私たちは、少子化や子どもを産むということについて、人々が現在どのように考えているかを正確に把握しているとは言いがたい。

そこで本研究では、人々が少子化についてどのような意識をもっているのかを探ることにした。少子化の今後を担っている若い世代を対象とし、聞き取り調査と調査票調査を行なった。そして、調査を通して得られたデータをもとに、私たちが少子化についてどのように向かい合うべきかを考察した。

1. 少子化の現状

本章ではまず、今の社会で子どもが減ることがどのような影響を与えるのか、また少子化がなぜ起こったと考えられるのかをまとめておく。

(1) ベビーブーム以降の変遷

1947年からおよそ3年に渡る年は、270万人近い子供が誕生しており「第一次ベビーブーム」と呼ばれ、出生率が非常に高い。これは、太平洋戦争が終結し、結婚や出産が続いたことが原因である。日本が急速に成長していく基点となったこの年は、子どもがたくさん生まれ、日本の未来に光が灯されていた。

このベビーブームが終わると出生率は急速に減少するが、やがて1972年ごろに「第二次ベビーブーム」が始まる。しかし、このベビーブームが終わると現在まで一貫して出生率は低い。現在では第

一次ベビーブームのころとは程遠い、およそ150万人程度の出生数である。今から60年前は現在のおよそ2倍の出生数だったのである。

第一次ベビーブームが終わり、次の第二次ベビーブームが始まるまでに約25年かかっていた。さらに25年が経過する頃、人々は第三次ベビーブームの到来を期待していたようだが、その決定的な兆しが見えることは無かった。それでも京都や大阪の駅、デパート、東京ディズニーランドやライブ会場などを目にする、これで少子化が問題になっているのかというほどの子どもを目にすることがある。このまま少子化が進んでくれたほうが、色々都合がよく、風通しのよい社会になるのではないかとも思ってしまう。しかし、他方で少子化は社会に対していくつかの悪影響をもたらすと考えられている。

(2) 少子化の影響

少子化がこのまま続くといずれ家が空洞化してしまい、家族や地域の集団がなくなることでその土地の過疎が進むと考えられる。農村で生まれた若者は都会へ進出する傾向が多いため、農村と都会の格差が大きく広がることとなるだろう。都会には人が集まりやすくなるが、それとは逆に農村地には高齢者ばかりが残ることになり、土地の金利問題や合併なども生じてくる。都会から疎外された高齢者には、介護や年金などの問題も多く発生し、若い世代の負担が増加するだろう。こういった問題も、これから先、人口が少なくなれば十分に対処できなくなってしまう。

また、少子化が与える影響は経済や社会にも大きく関わることになる。人口が少なくなると、商品の売上やレジャー施設の減退にも後々影響するだろう。また、子どもをターゲットにしたお菓子

少子化問題について

やおもちゃを販売する業界では、ますます購買者獲得が困難になるかもしれない。目に見える速さではないが、ちょっとしたきっかけにより日本の社会は少しずつ変化し、その変化の背景には少子化という問題が貼りついていることとなるだろう。さまざまな専門家がこれからの人口の減少傾向を調べており、2100年には今の半分にまで減少するなど危機感を募らせる情報は多くある。しかし2006年、長年問題視されてきた出生率が6年ぶりに上昇した。2005年に過去最低を記録した1.26人を0.05上回る1.31人に高まったのだ。その背景には、団塊ジュニアが家庭を持つ年齢となったことと、徐々にではあるが、社会の景気回復傾向とが関わっていると考えられる。これから少しずつ社会の変化と共に良い方向へ進んでいってくればよいが、現時点では不透明である。

(3) 少子化の原因

家族の変化

では、これまで子どもが減少してきたのはいったいなぜなのだろうか。その原因はいくつもあげることができる。まずは、結婚や出産に対する昔と今の価値観の変化がそのひとつだと考えられる。昔は結婚と出産は連動的なものと考えられており、結婚するのなら子どもを産むというのがその当時の家族スタイルであった。しかし現代では結婚と出産はそれぞれ別のものであるとして考えられており、結婚と出産の連動性は薄れているのではないだろうか。

また家族のスタイルも変わってきており、事実婚や別居という夫婦も増えてきている。まさに個人が自分自身の生活スタイルを強調し始めているのだ。後述の聞き取り調査の結果でもふれているが、自分の時間を持つという生活スタイルは、やはり結婚や出産によって、多かれ少なかれ壊されるものである。そういったことが嫌な人にとっては、やはり結婚や出産というものは受け入れにくいかもしれない。

女性の高学歴化による社会進出

また、社会的な変化のなかで大きいものの1つは、女性の高学歴化と社会進出にともなう晩婚化である。昔の女性は早く結婚し、子どもを作り育

てることが暗黙のうちに義務だとされていた。子どもを授からない女性は世間から孤立し、肩身の狭い思いをさせていただこう。しかし今はそういった考えは薄れ、女性も男性と同じように働き、自由に人生の選択ができる可能性が高くなった。そのため今では色々な分野で活躍する女性が増えてきている。

子供を出産した後、育てるという役割の比重はまだ女性の方がかなり多い。そのことから、出産をして家庭に入れば仕事ができなくなることが少子化の問題のひとつであると考えられる。女性が自らのキャリアや能力を生かして仕事をし、社会がどんどん発展していくのは大変喜ばしいことであるが、その反面、やはり私生活で限られた時間を自分以外のことに費やすのは難しいのではないだろうか。本格的な仕事と徹底した家事育児を一人の身体で成し遂げることは体力的にも精神的にもかなり大変だ。

仕事をしていると育児に手が回らなくなり、育児をしていると仕事ができない。昔に比べると育児休暇を実施している会社は増加しているが、休暇期間が十分ではないことや、休暇後の完全な職場復帰ができないという問題点がある。それでは一生懸命に働いている女性は、好きな仕事から離れてまで、子どもを産む気にはならないのではないだろうか。

また国の社会保障がまだまだ充実しておらず、安定した家計を保障されないままでは、やはり子供の存在は考えにくいという問題もある。シングルマザーを対象にした児童扶養手当の減額も決まった(5年間支給した世帯)。子供を持つ独り身の母親にとっては、かなりの痛手になることだろう。

増加する離婚・再婚

近年、離婚していく著名人をよくニュースで目にする。これも少子化の原因であると考えられる。昔は決められた人と一度結婚したらその人と一生を共に過ごすという考えが強かったと思うが、今は結婚の自由が認められ、個々人が好きなように恋愛を楽しむようになった。そうしたことで結婚や離婚に対するハードルが低くなり、早々と離婚するのは著名人だけではなくなくなった。離婚をした女性は自らが仕事をし、自分自身を社会の中に

生かしていかなければならない。そのため、子どもという存在は社会で働く女性にとって重荷になってしまうことも考えられる。もし子どもがいたとしても昔のように大人数ではなく、一人っ子や2人、3人などの少人数が多い。子どもの養育費や生活費のことを考えると、やはり多くの子供を持つことは大変である。

地域環境

また、地域環境の問題というのも少子化の原因のひとつにあげられる。子どもを安心して育てられる場所 保育所・幼稚園・託児所など家の近くにそういった施設が充実していれば多少仕事があっても安心して子どもを預けられる。学校や塾、習い事などをさせる教室が便利なところがあると子育てはやりやすさを増す。それだけで十分子どもが欲しいと思えるのではないだろうか。

さらに、近隣住民の協力なども大いに関係する。最近では近所付き合いがあまり頻繁に行なわれなくなったかもしれない。地方から出てくる人が増え、マンションなどでも隣に住んでいる人の顔も分からないということがある。そういった状況は子どもを持つ親にとっては不安な面もある。子どもを育てるということは、自分の身を守ることに以上に責任があり、大変なことである。

さらに、病院の方にも問題が起きている。現在助産婦や看護師は日に日に減少しており、患者の数と合わない状況になっているかもしれない。これから子を産む親にとって安心して出産ができないということになれば、子どもを持つことに初めから不安を感じることになる。

(4) 現状のまとめと問題

少子化の原因、少子化がもたらす影響としては、以上のようなものが考えられる。少子化は様々な社会的影響を与える。原因としては、経済的な問題、女性の勤労問題や他にも土地の問題、公的扶助の廃止など様々なものが考えられる。また影響としては、地域の過疎化や家の空洞化、これからの年金破綻問題などの経済問題がある。若年層の人口が急激に減少すると今ある制度や社会システムを揺るがすこととなる。

こうした状況はマスメディアなどを通して伝え

られているが、人々、特に今後の人口の増減と深い関わりのある若い世代が、これらをどの程度把握し、またどのような意見をもっているだろうか。本研究ではまず聞き取り調査を行ない、これらの点を少し詳しく尋ねてみた。さらにその成果に基づき、調査票調査を行なった。

2. 聞き取り調査

聞き取り調査では、若い女性を対象に、結婚と出産、育児についてどういう考えをもっているのかを調べた。

現代の若い女性は結婚や子供を育てるということに関してどういう考えをもっているのだろうか。回答から見られる特徴や共通点、類似点などを分析し、考察する。

(1) 方法

調査項目

- 主な調査項目は以下の通りである。
- 結婚に対してどのようなイメージをもっているのか。
- 有名人の結婚報道などを聞くとどう思うか。
- 結婚はしたいか（理想の結婚年齢）。
- 結婚のメリット、デメリット
- 子どもは欲しいか（その理由）。
- 子どもは何人欲しいか。
- 子育てに対するイメージ。
- 少子化問題についてどう思うか（解決策など）。

調査日時

2006年7月に実施した。

調査協力者とそのプロフィール

調査協力者は20代の若い女性3名（以下、aさん、bさん、cさんと呼ぶ）とした。彼女たちの年齢、兄弟構成を以下に示す。

- aさん 20歳 姉（26歳・未婚）
- bさん 19歳 兄（21歳・未婚と23歳・未婚）
- cさん 21歳 姉2人（32歳・既婚と28歳・既婚）兄1人（26歳・既婚）

(2) 結果

調査者と調査協力者との会話の詳細は巻末の

少子化問題について

「付録1」に示す。調査協力者3名の回答の概要は次のようにまとめることができる。

aさん

結婚は25～30歳くらいでしたい。
 仕事に熱中したい気持ちもある。
 結婚は女性の幸せのひとつである。家庭を持って落ち着くイメージがある。
 メリットは生きがいが増えること。
 デメリットは自分の時間が持たなくなること。
 子供は2人くらい欲しい（一人っ子は淋しい、多いとお金がかかる、大変）。
 子育てには不安がある。

bさん

結婚は26歳くらい。
 ちょっと遊んでから結婚したい。
 結婚好きな人と一緒になれるから幸せだと思う。
 メリットは好きな人と新しい生活ができること。
 デメリットは自分の時間が減ること。
 子供は2人くらいほしい。（1人はいやだが、多いとお金がかかり、大変である）
 子育ては楽しそう。
 もっとみんな子供を産むべきだと思う。

cさん

結婚は30歳前にしたい。
 もう少し早い方がいいが、就職や収入を考えるとそれくらいになると思う。
 30歳を過ぎるときつい。
 子供を産んで、幸せな家庭を築きたい。
 メリットは自分の作った居場所ができること。
 デメリットはそれによって自分も犠牲になること。
 子供は3人以上欲しい（少子化を気にしているから）。
 子育てはうまくいきそうな気がする。
 女性の勤労問題や土地などを安くするなどの対策が必要だと思う。

3名の回答の共通点をまとめると、次のようになる。

aさん - bさん - cさん

結婚は30歳くらいまで（bさんは聞き取りが終わった後にそう話した。したがって、「付録1」にはこの発言は含まれていない）
 子供は欲しい（1人っ子は嫌なので、2人以上）。
 結婚には幸せなポジティブなイメージがある。
 デメリットとして、自分の時間などがなくなると考えている。

aさん - bさん

結婚するまでに自分のしたいことをする時間が欲しい。
 子供は2人くらいがよい。

aさん - cさん

結婚には、幸せというイメージがある。
 幸せな家庭を作りたい。
 仕事に取り組んでから結婚したい。

bさん - cさん

子育ては楽しみである。（ポジティブなイメージ）

(3) 考察

今回聞き取り調査を行なった3人の女性は、いずれも結婚願望があり、出産も経験したいという意見が共通していた。しかも結婚年齢は30歳までと考えており、私はこの点に興味をもった。この30歳というひとつの節目を迎えることで、女性は結婚に対する憧れや魅力を無くしていつているのではないだろうか。結婚しない女性は仕事を優先的に考えている場合が多く、この機会を見送ることで仕事の道に行ってしまうのであろうか。もしかすると、30歳という年齢は仕事を一番楽しめる年齢なのかもしれない。未婚女性の増加や晩婚化が多く見られるようになったのは、女性の社会進出とその女性の仕事に対する姿勢や熱意が関係しているのではないか。

また、仕事以外のプライベートな面でも、女性は昔と違い、自由に楽しむことができるようになった。その結果、自分自身の時間や生活を壊されることを拒み、結婚と出産という束縛要因から遠ざかっているのかもしれない。

3人とも子供は2人以上欲しいという点で一致していたが、その中でもcさんの意見はおもしろかった。自分自身の欲求よりも、現代社会の少子化問題を気にしているから子供は3人以上欲しいという意見だ。cさんは少子化問題をとても気にしているようで、これからの社会が、もっと女性が働きやすいようになっていくべきだと主張していた。もしかすると、この意見は少子化問題を調査している私に対しての気遣いかもしれない。私も女性という立場からの意見は同じく、もっと安心・安定した社会になればいいと思う。

(4) 聞き取り調査を終えて

聞き取り調査で意外に思ったのは、たった3人ではあるが全員が子どもが欲しいと考えていることだった。しかも欲しい子どもの数は2人以上であり、もし多くの人が同じような希望をもち、かつそれが実現すれば、少子化問題はなくなってしまうだろう。そこで次に、少子化問題に関する調査票を作成し、より多くの人から回答を得たいと考えた。多数の意見を収集することで、今回の結果よりは詳細な回答が得られるだろう。

3. 調査票調査

少子化についての質問項目をいくつか作成し、調査票調査を実施した。若い世代の意識を調査するため、大学生を対象とした。

(1) 方法

調査票

この調査で使用した調査票を巻末の「付録2」に示す。

質問項目は、「子どもが欲しいか、欲しくないか」を問うものから始まり、さらにその理由を尋ねた。また、少子化問題をどの程度意識しているのかを問い、「少子化が気になる」と答えた者には「どういったことが気になるのか」を、「少子化が気にならない」と答えた者には「なぜ気にならないのか」を自由記述欄に記入してもらった。さらに出産や育児に関する質問も設け、それぞれ回答してもらった。最後に全員に年齢や兄弟の人数、生まれ育った地域を尋ねた。

日時と場所

2007年10月に京都学園大学で実施した。

調査方法

京都学園大学の講義「人間関係論入門」を利用した集合調査法とした。回答者はこの講義の受講生である。

(2) 結果

回答者のプロフィール

調査票は大学生66人に対して実施し、すべて回収したが、そのうち使用可能な回答は65人であった(98.5%)。アンケート回答者の性別構成は、女性20人、男性44人だった。すべて未婚で子どもはいなかった(いずれも無回答1名)。

年齢、きょうだい数、生まれ育った地域の度数分布表を、それぞれ表1～3に示す。平均年齢は19.0歳(標準偏差1.04)、平均のきょうだい数は2.5人(標準偏差0.84)となった。きょうだいが5人以上の回答者はいなかった。

表1 年齢の度数分布

年齢	人	%
18歳	18	27.7
19歳	34	52.3
20歳	10	15.4
21歳以上	2	3.0
無回答	1	1.5
合計	65	100

表2 きょうだい数の度数分布

きょうだい数	人	%
1人	8	12.3
2人	23	35.4
3人	27	41.5
4人	6	9.2
無回答	1	1.5
合計	65	100

少子化問題について

表3 生まれ育った地域の度数分布

生まれ育った地域	人	%
農山漁村	13	20.0
一部市街地化	26	40.0
都市近郊	13	20.0
中小都市	11	16.9
大都市	1	1.5
無回答	1	1.5
合計	65	100

子どもが欲しいかどうか、およびその理由

子どもが欲しいかどうかを問う質問への回答の度数分布を表4に示す。6割以上の人から子どもが欲しいという回答が得られている。「どちらかといえば欲しい」まで含めると、86.2%に達する。

表4 「子どもは欲しいですか」の度数分布

選択肢	人	%
欲しい	42	64.6
どちらかといえば欲しい	14	21.5
どちらかといえば欲しくない	4	6.2
欲しくない	5	7.7
合計	65	100

次に、子どもが欲しい、または欲しくない理由を尋ねている。理由の選択肢は予めこちらで準備し、複数回答可で選択させた。子どもが「欲しい」または「どちらかといえば欲しい」と答えた回答者向けの選択肢と、「欲しくない」または「どちらかといえば欲しくない」と答えた回答者向けの選択肢は異なるので、別々に示す(表5、表6)。

「欲しい」または「どちらかといえば欲しい」理由の選択肢として、最も多かったのは「子どもが好きだから」(69.9%)で、以下、半数以上が選んだ選択肢は「子どもはかわいいから」(66.1%)、「自分の親に孫の顔を見せたいから」(51.8%)、「出産や子育てを経験してみたいから」(50.0%)と続く。

これに対し、「欲しくない」または「どちらかといえば欲しくない」理由については、最も多いもので「子育てに自信がないから」、「子育てには

表5 子どもが欲しい理由の度数分布(複数回答可)

選択肢	人	%
子どもが好きだから	39	69.6
出産や子育てを経験してみたいから	28	50.0
子どもに興味があるから	26	46.4
子育てに自信があるから	6	10.7
自分の親のようにになりたいから	18	32.1
子育ては楽しそうだから	18	32.1
自分が年老いたとき、介護してもらいたいから	9	16.1
親というものにかっこよさを感じるから	12	21.4
子どもはかわいいから	37	66.1
自分の親に孫の顔を見せたいから	29	51.8
子どもには自分のできなかった夢を実現してもらいたいから	7	12.5
現在の日本では、育児に関わる制度が充実しているから	1	1.8
その他	7	12.5

表6 子どもが欲しくない理由の度数分布(複数回答可)

選択肢	人	%
子どもが嫌いだから	2	22.2
出産や子育てはめんどうくさそうだから	2	22.2
子どもに興味がないから	2	22.2
子育てに自信がないから	4	44.4
自分の親のようになりたくないから	2	22.2
子育ては難しそうだから	2	22.2
自分の時間がなくなるから	3	33.3
親というものは大変そうだから	2	22.2
子どもはかわいくないから	1	11.1
仕事を優先したいから	0	0.0
独身を満喫したいから	3	33.3
子育てにはお金がかかるから	4	44.4
現在の日本では、育児に関わる制度が充実していないから	3	33.3
子どもが犠牲になる犯罪が増えているから	2	22.2
自分の子どもが犯罪を犯すかもしれないから	0	0.0
その他	3	33.3

お金がかかるから」(いずれも44.4%)で、半数以上の回答者が選ぶような選択肢はなかった。

少子化に対する関心

表7は少子化問題が気になるかどうかを問う質問への回答である。「とても気になる」と「少し気になる」を合わせると、67.7%の回答者が少子化を気にしていることになる。とすれば、現代の若者は少子化に対して意識が低いと思われがちだが、実際は必ずしもそうではないということがわかる。

「1・とても気になる」「2・少し気になる」を選択した人の理由は以下の通りである。

今後子供の数が減っていくと、日本は経済的にやっていけなくなるから。

日本経済やこれからの日本の全てに影響を与え

表7 「少子化に関心はありますか」の度数分布

選択肢	人	%
とても気になる	13	20.0
少し気になる	31	47.7
あまり気にならない	16	24.6
全然気にならない	5	7.7
合計	65	100

る問題だから。

高齢者の増える中で、それを支える若い世代がないのがこわい。

子供が減ると次の世代に新しい発想ができないと思うから。

気にならないわけではない。

年金。

高齢社会はマズイヤろ～。と思うので。

なんとなく。

今後、国に関わってくる大事な問題だから。

年金についての知識はないが、子供が少ないと困る気がする。

若い日本人が少なくなると、年金がもらえなくなる。

子供の笑顔が見えなくなるのが不安。

人間がいなくなる。

最近は少子化の反面お年寄りが増えて、介護が十分に行きわたってないから。

子供が減っていくと経済的に不安定になりそう。有名な問題だから。

日本の将来を担う若者が減ることは、日本の未来もなくなる。

デンマークやスウェーデンなど子育てしやすい環境にある国々のように、日本も変わっていかねければならないと考えるから。

少子化によって、次世代を担う若者がいなくなるから。

世の中が老人ばかりになっているから。

今後の日本がどうなっていくのか心配だから。

少子化が進んで行き、老人が増え介護するものがいなくなる。

年金制度に大きく関係があるが、あまり子供が増えすぎても人口問題が起こりそうだから。

年々少子化の増加と共に、高齢化も進んでいるから。

小学校が減ったり、自分の家の近くで遊んでいる子供が減ったから。

自分が小学校の時のように、3クラスや4クラスあるのかなあって思う。

少子化 = 人口減少につながるようで、今後の日本が心配である。

自分の子供に負担をかけたくないから。

自分の年金が少なくなったらどうしようかと思う。

親になったとき、自分がどう得をするか知りたいから。

日本の人口が減ってきているから。

ずっと問題になっているから。

自分が年老いたときに心配。

自分は教師になるのが夢なので、採用してもらえかどうか気になってしまう。

強制的な策を出されたらたまったものじゃあないから。

このことから、少子化を気にする人々はこれからの日本の将来 年金や介護問題に不安を感じていることがわかる。新聞やテレビなどでも話題になることが多いこの問題は、日本のこれからの社会を担う若者にとって、大変重要なことなのだと思う。

次に、「3・あまり気にならない」「4・全然気にならない」を選択した人の理由を示す。

少子化が自分と関わりがあると思えないと感じてしまうから。

自分には直接的に関係がないように思われるため。

自分の世代ではそれほど深刻にはならなそうだから。

考えたことがあまりないから。

周りに子供がたくさんいるから、あまり少子化に『ピン』とこない。

減りすぎているわけじゃないし、問題ないと思う。

まだ子供を産んだことはないし、少子化という実感がわからないから。

ピンとこないから。

自分の身の回りが兄弟、姉妹が多く、身近に感

少子化問題について

表8 その他の質問（男女とも回答するもの）の記述統計量

項目	度数	平均値	中央値	最頻値	標準偏差	最小値	最大値
子供が好きである	64	3.39	4	4	0.85	1	4
子育ては楽しそうである	65	2.98	3	3	0.80	1	4
子育てに自信がある	65	2.12	2	2	0.76	1	4
自分の子供がいじめられないか不安である	65	2.71	3	3	0.82	1	4
仕事と家庭なら仕事を選ぶ	65	2.11	2	2	0.79	1	4
できちゃった婚は恥ずかしいことである	65	2.34	2	2	0.94	1	4
男性にも育児休暇が必要である	65	3.23	3	3と4	0.77	1	4
泣いている子供を見るとイライラする	65	2.08	2	2	0.89	1	4
育児にはデメリットしか考えられない	65	1.54	1	1	0.69	1	4
子供にはたくさんの愛情を注ぐことができる	65	3.26	3	3	0.73	1	4
子供に殺されないか不安である	65	1.43	1	1	0.73	1	4
結婚や育児は人生の幸せの一つである	65	3.40	4	4	0.84	1	4
子育てをして自分の時間が持てなくなっても構わない	65	2.66	3	3	0.83	1	4
これからずっと独身を満喫したい	65	1.74	1	1	0.92	1	4
子供は芸能界に入らせたい	64	1.53	1	1	0.73	1	4
仲の良い家族を見ると羨ましく思う	65	3.17	4	4	1.04	1	4
子どもの名前を考えている	65	2.05	2	1	1.02	1	4
子どもが欲しいのは自分を介護してもらうためだ	64	1.55	1	1	0.66	1	4
子どもがいると、自分の自由がなくなる	64	2.23	2	2	0.81	1	4
少子化が深刻な問題であるとはあまり思わない	65	2.12	2	1	1.05	1	4
自分には責任感がない	64	2.55	2	2	0.78	1	4
自分は家族を持つ必要性を感じない	64	1.92	2	1	0.98	1	4
子どもと遊園地に行きたい	65	3.28	4	4	0.96	1	4
育児はやりがいがあると思う	65	3.29	3	4	0.80	1	4

じないため。

時期がきたらまた子供は増えると思うから。

関心、興味がないから。

子供が欲しいからといってすぐ子供が産めるとは限らないし、興味がない。

あまりよく知らない。

少子化問題はあまり気にならないと答えた人の意見は、「自分にはまだわからない」、「実感が無い」というような意見でまとまった。

以上をまとめると、少子化が気になると回答し

た人は全体の約3分の2で、その理由は年金や今後の日本社会を気にするものが多く、少子化自体を気にしているという回答はあまりなかった。少子化が気にならないと答えた理由には、少子化というものにまだあまり危機感を感じないという意見が多かった。

その他の質問

その他に、子ども、家庭、結婚などに関する質問を設け、「そう思う」（4点）、「ややそう思う」（3点）、「あまりそう思わない」（2点）、「そう思わない」（1点）の4件法で回答してもらった。質問は男女とも回答するもの（24項目）、女性のみ回答するもの（5項目）、男性のみ回答するもの（3項目）を用意した。それぞれの質問文、記述統計量を表8、表9、表10に示す。

(3) 考察

聞き取り調査の結果からは、調査協力者3人全員から子どもを生みたいという意見が得られ、さらに調査票調査でも4分の3以上の回答者が子どもが欲しいと答えた。また6割以上の方が少子化を気にしている。

それにも関わらず、一体なぜ少子化は進んでいくのであろうか。考えられる理由の1つは、仕事、時間、費用といったあらゆる問題が目の前に立ちはだかり、自分の意思とは違った人生の方向性を歩んでいくからということである。今回の調査の回答者は全員が大学生という比較的若い年齢だったので、現実には立ちはだかるであろう問題を意識せず回答できたという可能性が考えられる。したがって、もう少し回答者の年齢を高く設定し、大学生ではなく社会人に調査をすれば結果は違うものになっていたかもしれない。

4. 今後の課題

今回の調査で見られた傾向が、若い世代一般に当てはまるとすれば、少子化対策として必要なのは若者たちの意識を変えることではないだろう。社会は彼らの希望を実現するような対応策をとっていかねばならない。人口の減少は、おそらく避けられないであろうが、急激な減少は問題が大きいため、それを緩和するための政策は必要で

表9 その他の質問（女性のみ回答するもの）の記述統計量

項目	度数	平均値	中央値	最頻値	標準偏差	最小値	最大値
出産を経験してみたい	21	3.10	3	3	0.89	1	4
出産にはデメリットしか考えられない	21	1.62	2	1	0.74	1	4
自分はいい母親になれると思う	21	2.52	3	3	0.68	1	4
結婚や出産は女性の幸せの一つである	21	3.43	4	4	0.81	2	4
子供ができれば仕事を辞めようと思う	21	2.71	3	3	0.78	1	4

表10 その他の質問（男性のみ回答するもの）の記述統計量

項目	度数	平均値	中央値	最頻値	標準偏差	最小値	最大値
子どもが誕生する瞬間を見てみたい	43	2.79	3	3	0.99	1	4
自分はいい父親になれると思う	43	2.70	3	3	0.91	1	4
子供ができれば妻には仕事を辞めてもらいたい	43	2.14	2	1	0.99	1	4

あろう。政府は予算の使い方を考え、もっと積極的な姿勢を見せる必要がある。企業では、女性だけでなく男性にも育児休暇を与え、育児が終わっても元の職場に戻れるように、育児後の補助も考えなくてはならないと思う。子どもができたということで社会から遠ざけられることは、大変不安なことである。

現在、日本では原油価格の高騰や株価の下落などにより、日々の生活に対する不安が大きくなってきている。子どものいる生活には多くのリスクが伴うが、そのリスクを国や政府機関がどのように対処していくのが重要である。国の援助にも限界はあるが、世界には、子どもの教育を重要視し、個人の負担を減らし、周りの環境を整え、子育てがしやすいように取り組んでいる国もある。そういった面を日本はもっと取り入れるべきではないだろうか。企業や地域が協力し、子育てのしやすい環境を作ることが、これからの少子化を防ぐために重要であると思われる。

参考文献

- 白波瀬佐和子, 2005, 『少子高齢化のみえない格差』東京大学出版会.
 清水浩昭, 1998, 『日本人口論』放送大学教育復興会.
 毎日新聞社人口問題調査会(編), 2003, 『少子高齢社会の未来学』論創社.

付録1——聞き取り調査の聞き起こし文

以下、Q は調査者（村井）、A は調査協力者（a さん、b さん、c さん）の発言を表わす。
また、（ ）は相手の相槌を表わす。

(1) aさん

- Q 少子化問題についてインタビューしたいと思います。まず、性別を教えてください。
- A 女です。
- Q 年齢はおいくつですか。
- A 二十歳です。
- Q 兄弟はいらっしゃるでしょうか。
- A います。
- Q 兄弟の構成は。
- A 姉がひとりです。
- Q はい。お姉さんは結婚していらっしゃいますか
- A いえ、独身です。
- Q はい、ありがとうございます。お姉さんはおいくつですか。
- A 23です。
- Q はい、簡単な質問項目をしますが、この質問項目は他では一切使用しませんのでご安心ください。まず、あなたは結婚に対してどのようなイメージをおもちですか。
- A 結婚に対して？……女性の…女性の…んー…女性の幸せの一つだと思います。
- Q はい、なぜ女性の幸せの一つだと思われるのですか？
- A …人それぞれ結婚もしなくていい、いっそう独身でいいという人もいるとおもいますが、やっぱり女性として生まれたからには家庭を持つことはやっぱり女性として生まれたからの女性の幸せだとおもいます。
- Q はい、ありがとうございます。有名人の方の結婚を聞くとどう思いますか
- A …有名人？
- Q キムタクと工藤静香の結婚とか。羨ましいとか。
- A …ちょっと羨ましいとは思うけど、芸能人はやっぱりお互いが忙しいからやっぱり離婚とかする夫婦多いし、…羨ましいけどこの先生活がうまいこといくのかどうか心配ではあります。
- Q 結婚はしたいですか。
- A したいです。
- Q はい、何歳くらいが理想ですか。
- A 25か……まあ遅くても30までにはしたいです。
- Q あーなぜですか。
- A 今すぐはやっぱり就職とかあるので、仕事に熱中したいけど、やっぱり30くらいには落ち着きたいというか。
- Q 結婚には落ち着くイメージが？
- A うん。結婚には落ち着くイメージが…あるからです。
- Q 結婚のメリットとデメリットを教えてください。
- A メリットは支えてくれる人が増える。夫であり、子供が生まれたら子供のためにがんばれるし。生きがいがある…とかそんな感じ。デメリットは……自分の時間がもてな

くなる…でももてるかなあ…

Q 少なくなる？

A 少なくなる。家族のためになにかしようとする、やっぱり少なくなるというか…。

Q なるほど。

A はい。

Q あなたは将来子供がほしいですか

A ほしいです。

Q それは何人くらいとか考えてますか。

A 何人でもいいけど2人はほしいです。

Q それはなぜですか。

A やっぱりまあ、一人やと淋しいし、まあ淋しいやろうし、多いとお金かかるし、産むとき痛いし、笑 2人がベストなのではないかと。

Q 子育てに対するイメージはありますか。ネガティブとはポジティブとか。

A 子供が小さいときは泣きわめくから、育児ノイローゼになりそう…うん、なりそうな不安が。

Q そこらへんはネガティブな感じ。

A そうですね。不安の方が大きいです。

Q でも子供はほしい？

A 子供はほしい。

Q なるほど。はい。ありがとうございました。

A いいえー。

(2) bさん

Q えーこれから少子化問題についての、インタビューをしたいと思います。

A はい。

Q まず、性別を教えてください。

A 女性です。

Q 年齢はおいくつですか。

A 19歳です。

Q はい。兄弟はいらっしゃいますか。

A はい。3人です。

Q はい。構成は？

A え、なんていうの？…兄、兄、自分。

Q あ、お兄さんが2人？

A はい。

Q はい、ありがとうございます。お兄さんは結婚していらっしゃいますか。

A 結婚してません。

Q お兄さん…一番上のお兄さんはおいくつですか。

A 23です。

Q はい。二人目は？

A 21です。

Q はい、ありがとうございます。

えーそしたら簡単な質問をしたいと思います。あなたは結婚に対してどのようなイメージをおもちですか。

A …幸せになれると…おもいます。

少子化問題について

- Q なぜそう思われるのですか。
- A いや、好きな人と一緒になれるから。(んー) …です。
- Q 好きな人と一緒になれると幸せ？
- A はい。
- Q 結婚はしたいですか。
- A したいです。
- Q それは何歳くらいが理想ですか。
- A んー…26くらいですかねー。笑
- Q 26くらいで。それはなぜですか。
- A ちょっと遊んでから結婚したいな、みたいな。
- Q あー、遊んでから結婚…と。
- A はい。
- Q はい。結婚のメリット、デメリットを教えてください。
- A メリットは……んー…あるよね。笑
- Q なんでも結構です。
- A …んー好きな人と一緒になって、新しい生活ができることです、ね。
- Q なるほど。笑じゃーデメリットは何かありますか。
- A デメリットは…自分の時間が減ること(うん) …だと思います。
- Q はい。ありがとうございます。
- じゃーえー子供についてですけど、あなたは将来子供が欲しいですか。
- A 欲しいです。
- Q それは何人ぐらいが？
- A 2人…です。
- Q 2人？
- A はい。(はい)
- Q なぜ2人くらいなんですか。
- A 男の子と女の子が欲しい。
- Q え、なぜ2人なんですか。
- A なぜ2人？(うん) …2人以上…3人以上だとお金もかかるし、大変そう。(んー) 育てるのが大変そうやから。
- Q あー大変そう。なるほど。
- 子供を産んで育てるということに対して、何かイメージとかはありますか。
- A …イメージ…まず、大変…笑。でも…楽しいかなって思いますね。
- Q あー子育ては楽しいと。(そうそう) ちょっとポジティブな感じですね。
- A 笑 ポジティブ…はい。
- Q なるほど。じゃあ、これ…少子化問題が今問題になっていますがそれについてどう思われますか。
- A えー、…いやーみんなもっと産みましょう。笑
- Q 笑じゃーもっと産んだほうがいいと？
- A はい。そうですー。
- Q あー、そのためには結婚して…？
- A そうですねー。笑
- Q そうですか。
- ありがとうございました。
- A はい。

(3) cさん

- Q はい、えーこれから少子化問題についてのインタビューをしたいとおもいます。
- A はい。
- Q このインタビューで使われた内容はゼミ以外では使用しませんのでご安心ください。
はい、まず、性別を教えてください。
- A 女。
- Q はい、年齢はおいくつですか。
- A 21です。
- Q 兄弟はいますか。
- A はい。えーと（はい）4人兄弟です。
- Q 5人？
- A 4人。
- Q 構成は？
- A 女、女、男、わたし。
- Q はい、ありがとうございます。
兄弟は結婚していらっしゃるでしょうか。
- A はい、私以外みんな結婚しています。
- Q 上のお姉さんはおいくつですか。
- A 今年32になりました。
- Q お姉さんはお子さんいらっしゃいますか。
- A います。
- Q 何人いらっしゃいますか。
- A 一番上は3人います。
- Q 3人？
- A はい。
- Q 真ん中のお姉さんは結婚していますよね？（はい）お子さんいらっしゃいますか。
- A はい。2人。
- Q 2人？
- A はい。
- Q お兄さんは子供いますか。
- A はい。います。
- Q 何人いますか。
- A 3人。
- Q 3人？はい、ありがとうございます。
- A らじゃ。
- Q あなたは結婚にたいして何かイメージを持っていますか。
- A 結婚のイメージは…漠然とあると思います。
- Q 願望が？結婚したいとか？
- A うん、ある。したい。全然したい。
- Q なぜそう思われるのですか。
- A うん……子供がほしいから。
- Q 子供が欲しいから結婚したい？
- A …のと、幸せな家庭を自分で築きたい。
- Q なるほど。結婚するンやったら何歳くらいが理想ですか。
- A えーと、30前に。
- Q 30前に？それはなぜですか。

少子化問題について

- A えー本当は早くしたいんですけど、就職のこととか、収入のこととか結婚費用を考えると、ま、30くらいになると。でも30過ぎると…笑きついなって。
- Q あー、じゃ30までに結婚して、それまではちょっとお金貯めて、仕事の方に専念して？
- なるほど。じゃあ結婚のメリットやデメリットがあれば教えてください。
- A メリット？………は、メリットは自分の…居場所、自分の作った居場所ができる。
- Q 居場所ができる？
- A うん。デメリットはそれで、自分も犠牲にならなあかんことかな。…と思う。
- Q じゃー自分が犠牲になるのがデメリット、居場所ができるのがメリット。
- A はい。
- Q あなたは子供が欲しいとさっき言うてはりましたけど、何人くらいが理想ですか。
- A …3人以上。
- Q 3人以上？それはなぜですか。
- A 一人やったら…一人っ子はいややっていうのと、少子化問題気にしてるのもあって。そしたら、3人以上。
- Q 少子化はなぜ気にしているんですか？
- A 日本人の人口が減っていくと思ったらやっぱりいや。
- Q うーんじゃあ、それを救うために3人以上産むと？
- A はい。
- Q はい、じゃあ子供を産んで育てるということになにかイメージとかはありますか。
- A 子供を産んで育てる…イメージ？…うん、ある。
- Q ありますか、例えば？
- A イメージ…大変やろうなってすごい思うし、自分も束縛されるンやろうなっていう悪いイメージもあるんですけど、でも自分が育てるって考えると、うまく育てられるっていうイメージしかわかない。
- Q あー、ポジティブな感じのイメージ？
- A うん。
- Q なるほど。最後に、これからの少子化問題、どのようにしたら解決すると思いますか。
- A まず、日本の仕組みで、もっと女性が働いても子供を育てられるような状態にすること。(うーん) いろんな…そういうことにもっとお金をかけたらいと思う。あと…あと…なんか、家を安く建てて…、家を安く建てられるところは、子供が多くできるって聞いている…ちょっと誤解してるかもしれんけど、(あー) 滋賀とかなんかどっかの島とかもやたらそこだけ子供増えているっていうのがあって、それは土地が安いのと、行きやすい。交通も便利とかそういうメリットがあったらそこは子供が増えるらしいから、そういうのを考えなあかんって思います。
- Q なるほど。土地の問題と、女性のこれからの勤労(そう)問題。わかりました。ありがとうございました。
- A ありがとうございました。

少子化についてのアンケート

調査へのご協力をお願いします

この調査は、現代社会で少子化という問題がどのように感じられているのかを、みなさまにおたずねするものです。

この調査で得られた個人の情報や内容は他では一切使用しません。また、このアンケートで個人を特定することはありませんし、使用後はきちんと処分しますので安心してご記入ください。よろしくをお願いします。

調査者 京都学園大学 人間文化学部 人間関係学科
4回生 村井なおみ

連絡先 岡本裕介ゼミ

少子化問題について

(1) あなたは子どもが欲しいですか。次の選択肢の中から、当てはまるものの番号を1つだけ選んで○で囲んで下さい。

- 1・欲しい。
- 2・どちらかといえば欲しい。
- 3・どちらかといえば欲しくない。
- 4・欲しくない。

(2) 上の質問で

『1』または『2』を選んだ方は(2)－1の質問に、
『3』または『4』を選んだ方は(2)－2の質問に
お答え下さい。

(2)－1・『子どもが欲しい』『どちらかといえば欲しい』と答えた方におうかがいします。それはなぜですか？

次の選択肢の中から、あてはまる理由を選び、番号を○で囲んでください。少しでもあてはまれば、いくつ選んでいただいても結構です。

- 1・子どもが好きだから。
- 2・出産や子育てを経験してみたいから。
- 3・子どもに興味があるから。
- 4・子育てに自信があるから。
- 5・自分の親のようにになりたいから。
- 6・子育ては楽しそうだから。
- 7・自分が年老いたとき、介護してもらいたいから。
- 8・親というものにかっこよさを感じるから。
- 9・子どもはかわいいから。
- 10・自分の親に孫の顔を見せたいから。
- 11・子どもには自分のできなかった夢を実現してもらいたいから。
- 12・現在の日本では、育児に関わる制度が充実しているから。
- 13・その他(理由:)

少子化問題について

(4) 次の質問について、あなたの御意見をお聞かせください。子どもが欲しいか欲しくないかに関わらず、お答えください。例にならって、4つの選択肢の中から1つを選んで、番号を○で囲んでください。

(4) - 1・次の質問は、女性、男性ともに回答してください。

	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
(例)・外で遊ぶのが好きである。	4	③	2	1
1・子供が好きである。	4	3	2	1
2・子育ては楽しそうである。	4	3	2	1
3・子育てに自信がある。	4	3	2	1
4・自分の子供がいじめられないか不安である。	4	3	2	1
5・仕事と家庭なら仕事を選ぶ。	4	3	2	1
6・できちゃった婚は恥ずかしいことである。	4	3	2	1
7・男性にも育児休暇が必要である。	4	3	2	1
8・泣いている子供を見るとイライラする。	4	3	2	1
9・育児にはデメリットしか考えられない。	4	3	2	1
10・子供にはたくさんの愛情を注ぐことができる。	4	3	2	1
11・子供に殺されないか不安である。	4	3	2	1
12・結婚や育児は人生の幸せの一つである。	4	3	2	1
13・子育てをして自分の時間が持てなくなっても構わない。	4	3	2	1
14・これからずっと独身を満喫したい。	4	3	2	1
15・子供は芸能界に入らせたい。	4	3	2	1
16・仲の良い家族を見ると羨ましく思う。	4	3	2	1
17・子どもの名前を考えている。	4	3	2	1
18・子どもが欲しいのは自分を介護してもらうためだ。	4	3	2	1
19・子どもがいると、自分の自由がなくなる。	4	3	2	1
20・少子化が深刻な問題であるとはあまり思わない。	4	3	2	1
21・自分には責任感がない。	4	3	2	1
22・自分は家族を持つ必要性を感じない。	4	3	2	1
23・子どもと遊園地に行きたい。	4	3	2	1
24・育児はやりがいがあると思う。	4	3	2	1

(4) - 2・次の質問は、女性のみ回答してください。

	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
25・出産を経験してみたい。	4	3	2	1
26・出産にはデメリットしか考えられない。	4	3	2	1
27・自分はいい母親になれると思う。	4	3	2	1
28・結婚や出産は女性の幸せの一つである。	4	3	2	1
29・子供ができたなら仕事を辞めようと思う。	4	3	2	1

(4) - 3・次の質問は、男性のみ回答してください。

	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
30・子どもが誕生する瞬間を見たい。	4	3	2	1
31・自分はいい父親になれると思う。	4	3	2	1
32・子供ができたなら妻には仕事を辞めてもらいたい。	4	3	2	1

少子化問題について

(5) 最後に、あなた自身のことについておうかがいします。

1・年齢 _____ 歳 _____ 回生

2・性別 男 ・ 女

3・婚姻状況 未婚 ・ 既婚

4・子どもの有無 有 ・ 無

5・あなた自身のきょうだい（兄弟姉妹）構成を教えてください。

_____人 きょうだい

6・あなたが生まれ育った地域は、どんなところですか。

- (1) 農・山・漁村地域
- (2) 一部では市街地化が進んでいるが、農・山・漁村地域の姿が残っている地域
- (3) ほとんどが市街地化された都市の近郊（住宅地）
- (4) 中小都市の町なか
- (5) 大都市の町なか

最後に、記入漏れがないかご確認をお願いいたします。

このアンケートは記入後、回収させていただきます。
ご協力ありがとうございました。